

大下千景(岩国市医療センター医師会病院 循環器内科)

受賞論文: Assessment of the aortic valve annular geometry by real-time three-dimensional transthoracic echocardiography: Comparison with two-dimensional transthoracic echocardiography and multidetector computed tomography. J Echocardiogr 2014; 12: 24-30.

大学院在学中に結婚を機に転居することになった際に、自宅からの通勤および常勤医勤務が可能な関連病院として現在の職場である岩国市医療センター医師会病院に派遣していただきました。出産後は6か月で子供を保育園に預けて復帰しました。その際には現在の職場で15時までの時間短縮勤務、当直やオンコールなどの免除といったサポートを受けて、育児と仕事の両立をすることができました。

臨床研究の継続に関する支援としては、山口大学大学院の教授および恩師の先生方にご協力をいただきました。具体的な内容としては、電話・メールでの論文作成における助言をいただいた他、月2回程度、リサーチカンファレンスへの参加させていただきました。遠距離通勤であったため、毎日往復で3時間の通勤時間があり、この時間を利用して論文の作成をすすめることが可能でした。現在の職場での育児サポート、大学院の先生方からの支援、家族の温かい協力があり、論文を作成することができました。たくさんの方々の協力を得て、現在もわずかながら研究をしていける日々感謝しております。

【受賞論文要旨】

受賞論文では、経胸壁3次元心エコーによる大動脈弁輪径計測の妥当性について経胸壁2次元心エコー、MDCTと比較検討した。約46%の症例では大動脈弁輪は楕円形を呈しており、大動脈弁輪面積は経胸壁3次元心エコーとMDCTによる計測では良好な相関を示したが、2次元経胸壁心エコーとMDCTによる計測では粗な相関であった。経胸壁3次元心エコーは大動脈弁輪の形状を評価する有用な方法であることが示された。